



かみさと 議会 だより

- ◇6月定例会の審議状況 ……P 2
- ◇5月・7月臨時会の審議状況…P 4
- ◇100号特集 ……P 5
- ◇追跡! 一般質問 等 ……P 8
- ◇6月定例会一般質問に10人 …P10
- ◇9月定例会会期日程等 ……P20



100号記念



100

一般会計補正予算（住民税非課税世帯等給付金事業等）を可決

第3回 6月 定例会

6月5日～13日



第3回6月定例会は6月5日に開会され、議員10名の一般質問と町長提出議案等24件、議員提出議案1件を審議して13日に閉会しました。

◆ 条 例 ◆

上里町税条例の一部を改正する条例

要旨 「道路交通法の一部を改正する法律」のうち、特定小型原動機付自転車の交通方法等に関する規定が令和5年7月1日から施行されることに伴い、上里町税条例について所要の改正を行うものです。

上里町印鑑条例の一部を改正する条例

要旨 移動端末設備利用者の証明用電子証明書が搭載されたスマートフォンを使用して、コンビニでの印鑑登録証明書の発行を可能とするため、所要の改正を行うものです。

上里町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

要旨 官報正誤による訂正手続きが行われたこと及びこども家庭庁の設置に伴い所掌事務が移管されたことに伴い、所要の改正を行うものです。

上里町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

要旨 こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に關する法律の施行、また、こども家庭庁の設置に伴い所掌事務が移管されたことにより、所要の改正を行うものです。

◆ 契 約 ◆

工事請負契約の締結（議案第27号）

要旨 七本木小学校校舎棟改修工事に伴い工事請負契約を締結するものです。

2億6048万円

工事請負契約の締結（議案第28号）

要旨 多目的スポーツホール計画改修工事に伴い工事請負契約を締結するものです。

8206万円

物品購入契約の締結

要旨 上里町消防団消防ポンプ自動車購入に伴い物品購入契約を締結するものです。

2623万5千円

◆ 人 事 ◆

農業委員会委員の任命につき同意を求めること

要旨 現農業委員会委員の任期が令和5年7月19日で満了となるため、新委員の任命にあたり議会の同意を求めるものです。

小林 進 氏（賀美）	坂本 俊雄 氏（長浜）	荻野 好雄 氏（黨）	山下 登 氏（神保原町）	菊地 宏利 氏（五明）	小暮 辰雄 氏（忍保）	小暮 和利 氏（勅使河原）	飯塚 豊 氏（勅使河原）	中久木大祐 氏（大御堂）	坂本 茂 氏（七本木）	森島 了 氏（七本木）	藤島 廣二 氏（神保原町）	木村 隆之 氏（堤）	須田 和弘 氏（帶刀）
------------	-------------	------------	--------------	-------------	-------------	---------------	--------------	--------------	-------------	-------------	---------------	------------	-------------

固定資産評価審査委員会
委員の選任

要旨 現委員の志田茂氏の任期満了により、大字三町の岡村幸二氏を選任することに同意を求めるものです。

◆ 令和5年度補正予算 ◆

上里町一般会計補正予算
(第2号)

概要 歳入歳出それぞれ3574万を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ106億3595万6千円とするものです。主な歳出の補正内容は次のとおりです。

- ・戸籍住民基本台帳事業 322万3千円
- ・予防対策事業（新型コロナウイルス ワイルドワクチン個別接種協力金事業補助金） 1120万円
- ・土木管理事業費 648万2千円
- ・中学校管理運営事業 880万円

上里町一般会計補正予算
(第3号)

概要 歳入歳出それぞれ2億3002万1千円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ108億6597万7千円とするものです。主な歳出の補正内容は次のとおりです。

- ・住民税非課税世帯等給付金事業 1億1163万円
- ・町内消費活性化推進事業 8436万7千円
- ・物価高騰対策支援事業 3402万4千円

◆ 条例（議員提出） ◆

上里町議会議員の請負の
状況の公表に関する条例

要旨 地方自治法の一部改正に伴い、上里町議会議員と上里町との同法第92条の2に規定する請負の状況を公表すること等により、請負の状況の透明性を確保し、もって議会の運営の公正及び事務の執行の適正を図るため、新たに定めたものです。

第3回6月定例会 議案に対する各議員の賛否

議 案	石井慎也	伊藤 寛	金子義則	戸矢隆光	高橋勝利	飯塚賢治	猪岡 壽	齊藤 崇	植原育雄	高橋正行	新井 實	沓澤幸子	高橋 仁	議 長	結 果
上里町税条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
上里町印鑑条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
上里町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
上里町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
工事請負契約の締結（七本木小学校校舎棟改修工事）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
工事請負契約の締結（多目的スポーツホール計画改修工事）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
物品購入契約の締結（上里町消防団消防ポンプ自動車購入）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
農業委員会委員の任命につき同意を求めること（小林進氏 他13名）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		同意
令和5年度上里町一般会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○		可決
固定資産評価審査委員会委員の選任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		同意
令和5年度上里町一般会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
上里町議会議員の請負の状況の公表に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決

※議長は議事進行を行うため、可否同数の場合のみ表決に参加します。

(○賛成 ×反対)

創刊100号記念特集

住民に親しみ、読まれる議会だよりを目指して

議会だよりは、平成10年の創刊から今号で100号を迎えました。これは長年にわたる議会の諸先輩方の努力の賜物であります。また議会だよりは、町民の皆様と議会を結ぶパイプ役でもあります。今までの町と「議会だより」の歩みを振り返ります。



創刊号発行時議長
丸山 眞司

上里町「議会だより」が記念すべき100号を迎えましたことを心よりお喜び申し上げますと共に議会広報広聴常任委員会皆さまのご労苦に深く感謝申し上げます。

創刊時、私は議会議長でしたが、その以前から議会だより発刊の必要性を長年訴え続けてきました。当時は、反対意見も多く、なかなか発刊できませんでした。しかし、たまたま私が議長就任時に議会だより第1号の発刊に

漕ぎつけられましたことを今、懐かしく思い出しています。

議会だより創刊号発行前の上里町議会は、年4回の定例議会での一般質問者はごく少人数で議案質疑や政策提言も低調、住民とのコミュニケーションもほとんどなく、議会改革と議会と住民とをつなぐコミュニケーションの活性化が大きな課題となっていました。このため、私はこの課題解決に同僚議員と共に率先して取り組み、議会だよりが発刊できたことを大きな喜びとしていました。

政治や経済また住民意識も大きく変わりつつありますが、開かれた議会、そして議会に対する町民の関心や信頼を高めることは、いつになっても変わらないことと思っています。今後、より一層の議会の活性化と町民の議会活動への認知と関心の向上、さらには議会への町民参加へとつながることを願っています。

議会が本来持つ機能は「政策

提案機能」と「監視機能」であって、この機能の可視化と議会の存在意義を住民に伝える「議会だより」へとなることと、議員各位の更なるご奮闘を祈念しております。



現議長
黛 浩之

「上里町議会だより」が平成10年11月に創刊して以来、町民の皆様には議会活動をより知っていただくための広報誌として発行を重ね、この度100号の節目を迎えることができました。

これも偏に町議会に対する町民の皆様のご理解とご支援の賜物と心より感謝申し上げます。併せて議員の諸先輩方や歴代の編集委員の方々の方ならぬご努力に敬意を表します。

創刊から25年、上里町を取り巻く環境は大きく変わり、地方活性化対策、地域防災力の強化、

少子高齢化対策など地方自治体に課せられた課題は山積しており、議会が果たさなければならぬ責任は、今後も益々大きくなってまいります。

その中において、議会情報の発信の重要性は、今後ますます高まってくるものと存じます。

現在、上里町議会では、上里町議会基本条例に基づき、わかりやすい開かれた議会を目指し、議会改革を進めております。

この100号記念特集を契機として、町議会の長い歴史を振り返るとともに、町民の皆様のご意見をいただきながら、紙面の充実に一層努力してまいります。

今後も町民の皆様が、「議会だより」を通して、議会の動きを正確に分かりやすくお伝えできよう、また議会をより身近に感じていただけるよう、研鑽を重ねてまいります。

これからも議会に対しましてご指導ご鞭撻の程宜しくお願いを申し上げ、第100号発行にあたりましてのご挨拶といたします。

号までのあゆみ



平成20年9月(40号)
平成20年度
一般会計予算 67億3,200万円
人 □ 30,808人
世帯数 11,090世帯
議員定数 14人



平成18年3月(30号)
平成17年度
一般会計予算 66億700万円
人 □ 30,701人
世帯数 10,557世帯
議員定数 20人



平成15年9月(20号)
平成15年度
一般会計予算 75億7,900万円
人 □ 30,454人
世帯数 10,237世帯
議員定数 20人



平成13年3月(10号)
平成12年度
一般会計予算 79億3,000万円
人 □ 29,990人
世帯数 9,702世帯
議員定数 20人



平成10年11月(創刊号)
平成10年度
一般会計予算 66億5,500万円
人 □ 29,377人
世帯数 9,259世帯
議員定数 20人

平成20年	平成18年	平成17年	平成15年	平成13年	平成10年	年月
12月	4月	6月	11月 5月 4月	11月 10月 1月	8月 3月	
・新本庄上里学校給食センター竣工	・賀美児童館完成	・議員定数20人→14人	・上里町東児童館完成 ・福祉巡回バス運行開始 ・第1回ふれあいまつり開催	・上里町役場 新庁舎開庁 ・町制施行30周年記念式典・新庁舎竣工式典挙行 ・県道 本庄・藤岡線バイパス開通	・ホームページ「かみさとまち」開設 ・戸籍の電算化開始 ・神保原駅南大通り線・駅南東西線開通 ・小学校のパソコン教室完成 ・堤調節池運動公園完成 ・神保原駅北コミュニティ広場完成	出来事



平成20年12月
新本庄上里学校
給食センター竣工

平成18年4月
賀美児童館完成



平成13年11月
上里町役場
新庁舎開庁



平成15年4月
上里町東児童館
完成



平成10年3月
神保原駅北
コミュニティ広場
完成

議会だより100



令和3年3月 (90号)
令和2年度
一般会計予算 88億2,780万円
人 □ 30,769人
世 帯 数 13,065世帯
議員定数 14人



平成30年9月 (80号)
平成30年度
一般会計予算 87億5,430万円
人 □ 31,017人
世 帯 数 12,787世帯
議員定数 14人



平成28年3月 (70号)
平成27年度
一般会計予算 82億2,099万5千円
人 □ 31,300人
世 帯 数 12,340世帯
議員定数 14人



平成25年9月 (60号)
平成25年度
一般会計予算 81億6,430万円
人 □ 31,516人
世 帯 数 12,092世帯
議員定数 14人



平成23年3月 (50号)
平成22年度
一般会計予算 74億2,700万円
人 □ 30,643人
世 帯 数 11,267世帯
議員定数 14人

令和3年	平成30年	平成29年	平成28年	平成25年	平成23年
11月 10月 8月 4月 3月	10月 6月	6月	7月 3月	12月 11月 8月 1月	11月
- 町制施行50周年 - このはな芝生広場完成 - 東京2020パラリンピック聖火リレーに伴う「上里の火」採火セレモニー - 上里町LINE公式アカウント開設	- 議会のペーパーレス化によるタブレット端末の利用開始 - 町民体育祭が第50回を迎える	- 平成30年度版 上里町「暮らしの便利帳」発行 - 議会だよりの表紙がカラーになる	- 上里中学校体育館完成 「こむぎっち号」の運行開始	- 都市計画道路古新田四ツ谷線開通 - 上里中学校新校舎棟完成 - 本庄道路（1期）起工式 - 上里町「Facebook」開始 - 神保原駅南土地地区画整理事業の完了	- 町制施行40周年記念式典 - マスコットキャラクター「こむぎっち」誕生



令和3年11月
町制施行50周年

平成30年10月
町民体育祭が
第50回を迎える



平成28年3月
「こむぎっち号」
の運行開始

平成25年11月
上里中学校
新校舎棟完成



平成23年11月
「こむぎっち」
誕生

追跡! 一般質問

議員の質問・提言に答える町執行部、
その答弁がその後どうなったのか・・・
どう町政に反映させているのか・・・対応を追跡します!

問 手話言語条例について

手話言語条例は児玉郡市で上里町だけがまだ制定されていない。いち早く手話言語の環境を確立してほしい。なぜならば、人は言語により思考し、発達していく。手話言語の制定について明快なる説明を。

(令和4年6月定例会)

答 制定準備を進めてまいりたい

不便や不安を感じながら生活してきたろう者の思いを真摯に受けとめ、ろう者とろう者以外の人が共生できる地域社会の実現に向け手話言語条例の制定準備を進めてまいりたい。

どうなった?



令和5年3月定例会において上里町手話言語条例が可決されました。

手話が言語であるとの認識に基づき、手話に対する理解及び手話の普及を図ることにより、ろう者とろう者以外の者が互いに理解し合い、共生することができる地域社会の実現を図るため、新たに制定されました。

(詳しくは広報かみさと令和5年5月号に)

児玉郡町議会議員

前期研修会



前期の講師は、一般社団法人公務員研修協会代表理事であります高島直人氏をお迎えし「ハラスメント防止とコンプライアンス」と題した講演に参加をいたしました。

講師の先生は、人事院に入省し、各種部門の

課長を歴任して、財務省総合政策研究所研修部長を最後に退官。現在は各省庁や自治体の研修講師を務めており、議員に求められるコンプライアンスや定義、パワハラの基本知識や公務員のパワハラの定義など盛りだくさんの研修を受けました。

自分が条例に関わった自治体の話や国の研修所の時代の話などを織り交ぜ90分をフルに使った研修会でした。

新聞紙上や雑誌に取り上げられるパワハラやコンプライアンスの記事などはごく一部であり、話を聞けば聞くほど奥が深く難しい事柄と感じました。全国ではハラスメント防止条例を制定している自治体は30とのことであり、いずれは各市町でも制定をする日が近々にやってくるのではと感じました。

尚、研修会に先立ち長く児玉郡町議会議長会に貢献のあった2名の方の表彰が行われました。

戸矢 隆光

学 校 訪 問



7月6日、7日に、町内の小・中学校7校を訪問しました。

今年は、令和2年から令和4年まで、コロナ感染症により休止していた学校訪問が3年ぶりに再開されました。令和4年に新しく選任された文教厚生常任委員にとっては初めての訪問となりましたが、各委員とも、それぞれの問題意識を持って臨みました。

各学校長より、学校要覧等の資料に基づいて、学校教育目標や経営方針、目指す学校像・児童

像・教職員像等について説明をしていただき、併せて校内の視察を行いました。

小学校

- ①ほとんどの学年において、35人学級が実現しているが、低学年クラスの35人ぎりぎりのクラスや5年生以上のクラスで35人を超えているクラスへの配慮も必要ではないかと感じました。
- ②トイレ掃除が小学生にとっては大変のようで、清潔さが保たれていないように思いましたので、今後、校舎内等の定期的な清掃管理が必要ではないでしょうか。

中学校

- ①校舎内外共にきれいに清掃が行き届いており、生徒は時には立ち止まって元気に挨拶してくれました。
- ②各教室においては、やはり小学生と違い実に静かで、すべての生徒が授業に集中していました。

総合的な問題点

- ◎全ての学校においてプールの老朽化が進み、今後の維持管理は難しいと考えられます。プールを有した施設を町で計画して、それを授業に活用し、それ以外の時間は町民の健康増進に使用するなどしても良いのではないのでしょうか。

伊藤 覚

利根川治水同盟治水大会



8月4日、第73回利根川治水同盟治水大会が栃木県宇都宮市のライトキューブ宇都宮で行われました。利根川流域の各首長や議員が参加のもと流域住民の生命・財産の安全確保と福祉増進ため、国会並びに政府に対し利根川水系治水・利水事業の促進を強く要望する宣言、決議が行われました。

講演では「令和元年台風19号利根川洪水に

想う」の題目で独立行政法人水資源機構の金尾健司氏のお話を聞きました。

当時試験湛水中だった群馬県のハッ場ダムでは7500万 m^3 の水を貯めることができ、伊勢崎市八斗島の観測で利根川の水位を1m下げることが出来たと聞き、上里町にも多くの雨を降らせ河川氾濫の危険も出た記憶に新しい台風の事で講演内容が身近に感じました。

また河川整備だけでなく、あらゆる関係者が出来る限りの治水対策を行うことで、洪水による被害を軽減しようという考え方に流域治水があると学びました。

田んぼで雨水を一時的に貯めることで田んぼから排水路や河川への流出を抑制する事で増水を遅らせる田んぼダムがあると知り、上里町も水田が多い地域なので今後田んぼダムの取り組みを研究して行けたらと思いました。

一般家庭でも雨樋から流れ出る水をバケツやタンクに貯め、晴れた日に花壇への水やりに使ったり、大雨が降ったらお風呂の水を流さないようにしたりするだけでも川の負担を減らすことが出来るので取り組んで行きたいと思いました。

石井 慎也



一般質問

戸矢 隆光

問

議員は予算等の賛否に加わるだけでいいのか

答

議会への説明、住民の意見を聞き丁寧に進めたい

1 各種事業の進め方について

問 町では大規模な事業実施

には基本計画等を立てて実施するのが大方であるが、一方で地域住民及び関係機関への説明や対応に多くの時間と配慮が必要になると思われる。

現在、保健センターを中心とする複合施設が役場東側に予定されているが、12月の一般質問の中で11月に複合施設を役場東側に建設することで生じる利活用は決定し、パブリックコメントで町民の意見を聞き、4月から準備室を発足し事業を推進するとあったが、今まで動かなかったのになぜ急ぐのか私にはわからない。

議会で指摘してもなぜ立ち止まりもつ一度検討しないのか。議員は予算等の採決の賛否に加わるだけでいいのか。

答 令和4年9月と12月の全員協議会で説明をし、12月の全員協議会の説明でご理解を頂けたものと認識しており、

2 本庄市下野堂から駅に通ずる道路の現状について

問 この道路は駅北まちづくり

事業の土地利用構想の中で駅北東通り線に位置付けられた路線であるが未だに何の動きもない。一時、高崎線高架西側の住宅予定地を後退させ交互通行にするのに動いたときに、この道路を始めるのではと注視していたが何の動きも聞かない。数百万の調査費をかけているとのことだが現状はどうなっているのか。

答 令和元年度におおむねの位置やルート等について複数案検討し、この調査結果をもとに神保原駅北まちづくり基

3 神保原駅北まちづくり事業について

問 3月議会中の議会の全員協議会で、

昨年3月に学校法人の理事長より町長に一旦白紙にしたい文書が届いたようであり、また公共用地のため公募する必要があるため、一旦白紙に戻して正式に受理するのがよいのではと答弁したが、法人のトップの理事長が提出した町への文書は大変重いものではないか。その後も数回協議をしていると答弁しており、今になって公

本計画では、安全・安心な場所作りに向けた町づくりの骨格軸と位置付けている。当該道路は駅北周辺と東側の地域を結び、駅利用者等の利便性が向上するとともに、駅北の賑わいの創出にも寄与することが期待される重要な道路であり、駅北の災害等の迂回ルートとして東通り線は重要な位置づけになっており早期整備に向けて取り組んでいきたい。

平性を保つなどと言っていたが今までの協議は何なのか。このようなことがなければ議会に話をしないで進めようとしていたのではないか。自治体の首長への文書送付は大変重たいものではないか。

答 神保原駅北まちづくり基本計画では「楽しみ、活力がみなぎる場所づくり」に向けて広域的かつ経常的に人を呼び込むため教育機関を誘導すると示している。学校法人から上里町の移転計画を一旦保留したい旨の連絡があったのは事実であり、この趣旨については当時町で策定作業を進めていた神保原駅北まちづくり基本計画にて大型商業施設跡地の活用方針を幅広く検討している中、教育機関誘致ありきとなるとその方針決定プロセスの幅を狭めてしまう恐れがあることから、町、学校法人双方合意のもと一旦保留とさせて頂いたが、教育機関誘致を軸とした跡地利用の考えに変わりはない。



一般質問



齊藤 崇

問 新型コロナが5月8日から5類に移行したが

答 町民に対し、必要な情報提供に努めていく

1 新型コロナウィルス感染症について

問 感染法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に。これと同時に町のコロナに関する相談センターも廃止された。まだまだ完全に終息したわけではない。町民は不安を募らせている。町民に対する町の対応は。

答 コロナに関する町の相談センターは廃止されたが、今後は保健センターが窓口となつて対応していく。また、町としては国や県からの情報に注視し、必要な情報をアナウンスしていく。

問 5類移行後の県内にある医療機関について、これまでコロナ診療をしてこなかった医療機関87か所のうち、今後は「診療できる」と回答したのは約2割だが町としては。

答 町内の医療機関で発熱患者等の受け入れを断らない仕組みの構築を目指し、発熱患者が迷うことなく身近な診療

所等で診療・診察が受けられるよう、県指定診療・検査医療機関に指定し、公表している。

問 これから先「ウィズコロナ」として生活していくわけだが、町はこのことに対する支援策をどのように考えているのか。

答 5類移行後はマスク着用や外出を控えるかどうかの判断は個人の判断に委ねられる。医療費においては新型コロナ治療薬などの一部は公費負担、5類感染症の疾病は季節性インフルエンザや新型コロナウイルス感染症だけではないため、他の疾病との公平性から、町としては医療費の負担増に対する支援はしないものとする。尚、ワクチン接種については令和5年度まで無料で接種できる。

今後も新たな変異株出現の可能性など、油断できない状況は継続するものと考えている。ウィズコロナの考えの下、必要な情報を確実に伝え、町民

の平穏な生活に資するよう努める。

2 児童・生徒の不登校について

問 町内には7つの小・中学校がある。数名の不登校児童・生徒に対する学校側の指導・対応はどのように行っているのか。

答 教育長 新型コロナウィルスの流行、感染により新たな学校生活に適用できず、学校への行き渋りや不登校になる児童・生徒が増加傾向にあった。不登校児童・生徒へのきめ細やかな対応と個々の実態に合わせた支援の推進、具体的には不登校児童・生徒について全教職員が共通理解を図るための教育相談部会や生徒指導部会を中心に情報を共有している。また、不登校の未然防止策としては、児童・生徒からの様々な悩みを相談できるよう、教育相談主任や養護教諭が校内での教育相談体制の充実を図っている。

問 家庭における保護者への指導・対応も大変重要と考えるが、どのように行っているか。

答 教育長 保護者への支援体制としては、保護者と担任が面談を行い、学校生活や日常生活などの相談ができる機会を定期的に設けている。また、悩みを抱える保護者に対して相談や心理的サポートを行うスクールカウンセラーを配置し、相談できる環境を整えている。適応指導教室だが、1市3町で運営し復帰に向けて個の支援を行っている「ふれあい教室」がある。また、地域力が必要で、今後も学校・保護者・地域との連携を図り、対応したいと考える。



通学風景



一般質問

石井 慎也



問

小学生にランリュックを配布してはどうか

答

財政状況を勘案した上で検討したい

質問

1

ゼロカーボンシティ
について

問 上里町は全国的に見ても

年間を通して日照時間が長く、太陽光を利用した太陽光発電を行うのに適した地域であると言われている。町内で新たな土地を取得せずに太陽光パネルを設置できる場所として神保原駅の自由通路があるが、太陽光パネルの屋根をかけて雨の日も使いやすくしてはどうか。

答 自由通路の屋根については線路上空に設置する構造物であることから、列車の運行に支障が生じない設備が必要であり、自由通路の耐荷重や技術的な視点も含め調査研究していく。

問 上里町は農業用水路が多く張り巡らされている。その水路上や法面に太陽光パネルを設置してはどうか。

答 水路の法面に太陽光パネルを設置することが出来れば町の既存財産の有効活用と土

地管理の省力化にも繋がる可能性があるが、財政負担も大きく投資に見合う採算性が必要である。

問 Jクレジット制度にお

ける新たな取組として田んぼの中干し期間の延長が新たな方法論として承認された。田んぼの多い上里町でJクレジット制度の活用を行い地球温暖化対策への積極的な取組として町をPR出来ないか。

答 中干し期間を延長する事で稲の生育が悪くなり収量が減少する可能性がある。また雑草が生えやすい環境となることへの対応や生産管理記録の整備など、農家の負担の増加も課題である。みどりの食料システム戦略を踏まえ、埼玉県や埼玉ひびきの農協など関連団体と連携し農家の皆様への支援、情報提供に努めていく。

質問

2

子育て日本一について

問 上里町の小学生はランド

セルを背負って登校しているがランドセルは重く体への負担が大きい。また、ランドセルは高価で家計負担になっていると思われる。そこで小学生に軽量で丈夫なランリュックを配布してはどうか。

答 教育長 町内小学校においてランドセルの指定は行っていない。ランリュックの無料配布については先進自治体の状況やメリット・デメリット等を調査研究し、財政状況を勘案した上で検討したい。

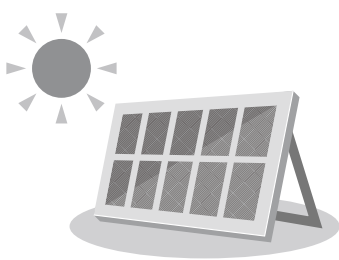
問 通学路の旗振り活動が、家族化や共働き世帯の増加に伴い、振りを行う保護者の負担が多くなっている。保護者の負担を軽減するためにも、交通指導員の増員や見守り隊の方々のお力を借りることはできないか。

答 教育長 子供達の安全は学校・保護者・地域が一体となつて守るものであり、特定の方に負担をかけることにより活動の存続が難しくなることも考えられる。地域の見守

りボランティアも年々高齢化が進んでおり、必要な人数を集めることが難しい地域もある。

問 四ツ谷金久保線は子供達の通学路になっているが交通量も多く、道幅も狭いため非常に危険である。子供達の安全を確保するためにも歩道の設置を検討して頂きたい。

答 歩道整備には道路拡幅に伴い、当該路線沿線には家屋が多数立地していることから沿線住民の協力や御陣場川に歩道用の橋梁を設置する必要がある、莫大な事業費がかかる。現在推進中の事業の進捗状況や住民要望路線の整備状況などを踏まえながら将来的に調整してまいりたい。





一般質問

猪岡 壽

問

区長と民生委員のなり手について

答

全庁的に取組む大きな課題と思っている

質問 1

移動スーパーについて

問 地元のスーパーなどと連携し、移動販売に取組むことについて

日常の買物に不自由している買物弱者を支援するため、地元のスーパーなどと連携し、移動販売に取組む自治体が増えている。

孤立しがちな一人暮らしの見守り支援の役割も期待されており、自宅で動けなくなった高齢者の救助にも繋がるケースもあるという記事が毎日新聞に載っていた。この件については、議会の公共交通等特別対策委員会を設置した中で、市民の食料品等の買物手段について、上里町議会が取り組み、町長に提出していて、その要望書の内容とは、近くで買物が出来るようコンビニなどの生鮮食品の充実に関する施策の検討に当てはまると思うが、町長の見解は如何か。

この移動スーパーについて

は、宮代町、白岡市、久喜市等県東部の市町で相次いで運行が開始されている。利用している一人暮らし79才の女性は「運転免許証を返納したので、近くで買物が出来るのは助かる」また、別の販売所を訪れた77歳の女性は「買物に自転車を利用していたが、転倒が怖くて徒歩で買物が出来る」と話している。

以上、移動スーパーの役割は買物弱者の救助に貢献また孤立しがちな一人暮らしの見守り支援の役割に貢献しているが、町長の見解は。

答 町では移動スーパーが買物弱者への支援として有効な方法としてとらえている。ただ、民間企業等との協力が不可欠なところであり、まずは児玉郡市内の実態を把握し、移動スーパーを実施している他市町の状況や課題等を調査研究し、買物弱者への支援について前向きに検討していく。

質問 2

区長及び民生委員について

問 区長及び民生委員のなり手について

今期の区長の定員は定員通りであるが、民生委員については5名欠員で、スタートしている。区長も定員は満たしているが、各行政区ともなり手探しには、大変苦労しているようである。区長・民生委員は地域の世話人となるべき人だが、それがなり手が減っているということは、地域の組織が成り立たなくなるとい



うことだ。

そこで、区長と民生委員経験者が多くいる「人権を大切に作る会」を担当している生涯学習課に仕組みづくりを研究してもらい、区長民生委員のなり手を増やしてもらうことにしたらどうか。

答 区長及び民生委員のなり手については、区長のOBの方から、いろいろな力を貸してもらって新しく選任していただいているところもあるようなので、そういったところでの先行事例も含めて、少し検討させてもらい、区長さん、また民生委員さんの後継者と言うか、なり手を町としてもしっかりと受け止めて改善に繋げていきたいと思っている。議員の皆さんからも、これがいよいよないかという、具体的な提案があったら、教えてもらえればありがたいと思っている。こういった課題は全庁的に取組む大きな課題だと思っている。



新井 實

問

学校体育館の空調導入について

答

町の財政状況を勘案しながら検討



上里中学校体育館

質問 1

小・中学校の体育館に空調を導入することについて

問 上里町立全小・中学校7校の体育館に空調設備を導入することについて。

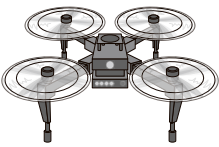
答 エアコンは、暑い時期に体育館を使用する際の熱中症予防策に加え、災害時の避難所運営時にも大変有効であると思う。一方で、小・中学校7校の体育館に整備する際の費用、そのランニングコストなど財政負担も大きいものとなるので、町の財政状況や他の事業との優先度を勘案しながら、慎重に判断していく必要があると考えている。

質問 2

災害対策について

問 災害時の災害状況把握にドローンの活用をすることについて。

答 町では現在、既に広報等で使用する写真や動画の空撮業務を民間事業者に委託し、活用している。今後は、災害対策に万全を期すため、平常時の活用と併せて災害時の被害状況把握にドローンのさらなる活用を検討し、関係機関との連携強化を図っていきたいと考えている。また防災行政無線の放送と同時にSNSで情報発信することについては、行田市で導入するシステムを含め、町に合った有効なシステムの導入について、費用対効果を見極めながら、導入に向け検討を進めていく。



質問 3

異次元の少子化対策について

問 少子化という難題の克服に向けて政策のメニューを見極め、若者の支援を拡充することについて。

答 上里町においては、子育てに関わる「こむぎっち10のサポート」の中で、従来の支援策に加えた令和5年度の新たな施策として、出産祝金の第3子以降への増額、出産祝品については、第2子、第3子の場合も選びやすいような種類を増やしている。また男性の育児参画のための新しい取組や、中高生向けのイベントの開催を企画している。

質問 4

小学校の放課後を充実する施策について

問 小学校の放課後の居場所づくりをめぐる新しい計画、「アフタースクール」の設置と導入について。

答 教育長 アフタースクールの設置と導入については、

質問 5

教育と人工知能(AI)の活用について

受け入れる小学校等の協力が大きなポイントとなっているほか、運営における子育て共生課や教育指導課との協議、連携が重要であると考えている。今後については児童が安心して放課後を過ごせるよう、放課後子供教室の充実と放課後児童クラブとの連携強化を推進していく。

問 AIを教育現場で活用する場合のガイドラインの作成と運用について。

答 教育長 技術が進歩すること自体は望ましいが、十分な議論がなされるべきだと考えている。特に、安易に生成AIを活用することで、子供たちの考える力を奪ってしまうことは避けなければならない。今後、文部科学省から生成AIについてのガイドラインが示されたら速やかに協議し、対応していきたいと考えている。



一般質問

沓澤 幸子

問 有機農産物を学校給食に

答 ハードルはあるが調査研究を進めたい

① 利用しやすい公共交通について

問 公共交通の見直しを、再度2年延長して得た検証と次期公共交通システムは、地域公共交通活性化協議会の協議決定後の公表ではなく、検討内容を住民に開示し意見を聞く機会を設けては。

答 現在利用データ等の分析と次期交通形態の検討を同時に進めている。適切な時期に公表し意見を伺う機会を設けたい。

② 食料問題と農業振興について

問 有事の輸入停止、パンデミックの混乱に備えて、農林水産省は農畜産物の増産を農家や民間事業者に命令できる制度をつくる検討を始めた。

ロシアの侵略戦争開始から食料品の高騰が続く、東京大学大学院の鈴木教授は、日本の食料自給率38%、輸入に頼ることで①コロナ禍による物

流の停滞、②中国による食料の爆買い、③異常気象による世界的な不作、④ウクライナ戦争の勃発の危機と、「遺伝子組み換え食品」や発がん性がある農薬や防カビ剤、成長ホルモンや飼料添加物使用食品など質の問題も指摘している。食料自給率と農業の現状について町長の見解は。

答 食料自給率の低下は、食生活の変化による輸入農産物の増加、農業従事者の高齢化などが主な原因と言われている。

上里町をはじめとした農業を基幹産業とする地方自治体は食の安全を担っていると言っても過言ではない。町内にある多種多様な営農形態に沿った支援が必要であり、県・農協と連携し持続性ある上里町の農業を目指したい。

問 「上里町農業振興プロジェクト」の5つの基本方針目標の到達点と課題は。

答 町の新規就農希望者相談は年に10人程度ある。農地の

集積・集約は約266ヘクタールで農地面積の約22%である。安心・安全な農産物栽培の取り組みに助成支援を行っている。農作業の体験教室や学校給食に地場産を取り入れている。食の安全保障等は国の役割が大きいが町は町の農業の発展を目指していく。

問 新規就農希望者に対し、作業場所の提供等のPRや機械購入前に無料貸し付けシス

テムも必要では。

答 受け入れる情報発信は大

事だと思ふ。農業経営の継続には安定性の確保が重要。次世代農業人材育成投資資金などを活用し充実を図っている。

問 農業を基幹産業とする町として、農家の肥料負担軽減とエコジョーの観点から、耕種・畜産農家を結んだ堆肥づくり

に力を入れ、有機農産物を学校給食に取り入れる考えは。

来の農業を進める上で大事な観点だ。学校給食への有機農産物の導入は、生産体制の構築が前提で、ハードルがあるが調査研究を進めたい。



③ 平和都市宣言塔について

問 「平和都市宣言」は更新の必要はなく常設となる。デジタルサイネージは、複数箇所の情報を頻繁に更新する場合は便利だが、設置及び維持管理費の比較は行ったのか。

答 非核三原則に基づいた考えを周知するため、役場1階ロビーとアグリパーク上里の2カ所に、デジタルサイネージの情報発信を予定し、増設も検討している。

(再答) デジタルからアナログに戻ることも含め検討したい。



一般質問

高橋 勝利

問

上里町の教員不足の現状について

答

教職員定数の不足はなく配置されている

質問 1

教員不足について

問 教員不足の現状について。

答 教育長 全国的に教員不足は喫緊の課題となっており、埼玉県も例外ではない。問題解決に向けて、埼玉県教育委員会を挙げて取り組んでいるところである。上里町小・中学校の現状は教職員定数に不足はなく、教職員の配置はされている。

質問 2

教員が不足している原因について

問 1校当たりに必要な教員数が増加・非正規教員への依存・教員のなり手が減少・産休・育休を取る教員の増加・地方公務員の定数削減などが挙げられる。その中で教職員の残業時間も問題になっている。こうした原因について教育長の見解は。

答 教育長 文部科学省は質の高い教員を確保するための総合的な方策の検討を中央教

育審議会に諮問し、「教職調整額等の改善」「働き方改革」「指導環境の整備」を一体的に進める考えで、来春に一定の方向を示すとしている。教員の時間外勤務については、授業準備や成績処理、提出物の確認などが主で提出文書については改善されている。

質問 3

教員不足への取り組みについて

問 ①正規採用を増やす②働き方改革③人材バンクを活用した講師登録制の増加④採用試験の年齢制限緩和・撤廃、採用試験実施時期の変更⑤大学と連携してインターン・特別選考を実施⑥教員環境を整備・教育の向上が挙げられる。教育長の見解は。

答 教育長 ご指摘の通り採用選考試験の倍率の低下は、教員の質の確保という観点から課題の一つであると考えている。県の状況は、令和4年度実施試験では小学校が1.8倍、中学校が教科ごとに違いがあ

るが平均3.7倍で、教員の質の確保という観点からも働きやすい環境を整える必要があり、県では、学校における働き方改革基本方針を改訂し、「日本一働きやすい」「埼玉の先生になりたい」と言われる埼玉県を目指して実効ある取り組みをしている。



質問 4

高校誘致について

問 これまでの交渉経過及び誘致が出来るのかのポイントについて。

答 地権者との交渉経過については、町の悲願でもある教育機関の誘致に向けて交渉を継続している。具体的内容に

については、交渉案件であるため答えは差し控えるが、早期用地取得の為、今年度も率直な意見を双方で話をしているところである。引き続き契約できるよう、価格以外の契約条件も含めてすり合わせを行っていく。

議員からも熱い思いを語っていただき、私も同じ考えで一歩一歩前進している認識であり、具体的交渉も詰め段階で議会の皆様の質問等もあるので、そうした思いをしつかり受け止め、しかるべき時が来た時には真っ先に議会に報告するのでご理解を頂きたいと思っている。





一般質問

伊藤 覚

問

旧中山道の交通安全、渋滞解消対策について

答

関係機関への要望活動を今後も活発に行う

質問 1

県道392号勅使河原庄線(旧中山道)沿線の交通安全対策について

問 国道17号線、及び旧中山道は、平日の朝夕に加え、土日、祝日においても以前に増して渋滞が発生していて、特に下りの渋滞が深刻であるが、町としての対応は。

答 大宮国道事務所長が来庁した際に、交通渋滞が開通前より激しくなった現状や住民の不安を丁寧に説明し、早急な本庄道路の完成を要望した。

問 旧中山道において通学時間帯の徹底した交通安全対策をどの様に行うのか。

答 地元の住民の交通安全対策や渋滞緩和策などを、本庄県土整備事務所や本庄警察署に引き続き要望する。

問 各小・中学校で児童・生徒の目線から通学路の危険箇所等のアンケート調査を実施し、情報収集を行ってみたい。

答 教育長 学校、地域との連携を図りながら、通学路の

危険箇所のアンケート調査など、情報収集の方法を検討したい。

質問 2

上里町における今後の観光の在り方について

問 地域住民しか知らない穴場スポットなどのローカルエリアへ足を運ぶことで、観光客も少なく、落ち着いた地域を楽しむことができるアンダーツーリズムを町内展開できるように、観光人材の配置、育成を行い、町の知られざる魅力や観光資源、スポットを発掘できるよう、開発、整備、推進を行ってみたい。

答 上里町はアンダーツーリズムに適した観光地と考えられるので、町の観光行政の今後の展開に向け、非常に参考になるものではないかと思う。これからの魅力ある上里町の実現に向け努力したいと思う。

問 今後、観光客の利便性の向上に向けて、休日の職員駐車場を解放し、役場敷地内にはレンタルサイクルを設置し

て、パーク&ライド方式で貸出してみたい。

答 環境負荷の低減や渋滞緩和などに効果があることから、多くの取組が実施されているが、提案のように実践できれば素晴らしいと思う。アンダーツーリズムの整備につながると思うので今後研究したい。

問 フォロワーの多いインフルエンサーのインスタグラムやツイッター等のSNSから上里町の情報を発信してもらうなどのプロモーションを実施してみてもどうか。

答 著名人とのコラボレーションもこのコンテンツの魅力の一つなので、検討してみたいと思う。

質問 3

役場職員の人事異動に伴うメンタルヘルスケアについて

問 派遣された職員が派遣先で孤立しないようにするための対策は行っているのか。

答 派遣職員に対するサポート体制は、不定期だが、総務



勝場交差点から賀美小前までの渋滞

課職員による業務内容、勤務状況、健康状況等の聞き取りを行っている。今後は、定期的な面談や電話での聞き取りなどを実施し、より相談しやすい環境及び体制づくりに取り組むたい。

問 心身ともに不調であると見受けられる職員や、報告を受けた職員に対し、町はどのようなメンタルヘルスケアを実施しているのか。

答 ストレスチェックや研修事業及び万が一不調に陥ったときに早期回復を図るための手だてを講じている。

問 メンタルヘルス専門の産業医を指定してみたい。

答 検討させていただきたい。



一般質問

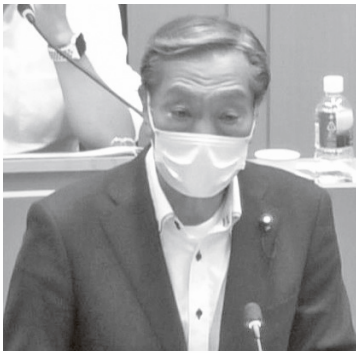
飯塚 賢治

問

町としてデフリンピックの支援を

答

心に残る大会となるよう応援する



質問

1

脱炭素化の取組について

問 電力消費に伴うことから進め、まずは先行地域の募集に対し、町として応募してはどうかという提案をしたい。

答 実現可能な具体的計画の策定が不可欠であり、共同提案者となる事業者等が不在の現状では応募が大変困難である。

問 自立分散型エネルギーの普及拡大を進めていかなければならないが、新たに住宅が増える地域等、モデル的に推進することは可能ではないか。

答 まちづくり事業を進めていく中で、新たな住宅建設地域等での太陽エネルギー利用促進に向け、モデル地域の設定の研究等と併せ、町民、事業者、行政の協働、連携の強化を進めてまいりたい。

質問

2

支え合い助け合う地域社会の構築について

問 この地域社会でも高齢化

が進み、電球交換やゴミ出しなど高齢者の日常を支える取組がますます重要である。日常の買物支援や、移動式オンライン訪問診療所の普及促進、認知症の人も家族も安心して生活できる取組について伺う。

答 社会福祉協議会で実施している高齢者等生活応援隊では、利用会員から依頼された日常生活上の困り事を援助している。買物代行も行っており、その他、民間による宅配サービス、スーパーが実施する買物荷物運搬サービス、お出かけサポート事業のタクシー券配布やヘルパーによる買物代行がある。また、移動販売は一部の地域で行われているが、町内を網羅できるような買物弱者へのさらなる支援の充実を図っていく。移動式オンライン訪問診療所については、本格導入されて間もないため、その役割や機能が当町の地域医療の課題解決に結びつくのか検証しなければならず、十分に議論する必要があると考える。認知症の方やご家族への支援は町としても重要であると認識している。認知症サポーター養成講座を開催し、累計で4,126名が受講された。認知症になっても、住みなれた地域で暮らしていただけるよう、どのような支援ができるか試行錯誤しながら実践してまいりたい。

質問

3

デフリンピック支援と共生社会の推進について

問 聴覚障害者の五輪と呼ばれるデフリンピックが2025年に日本ではじめて開催されることを機に、デフスポーツやデフアスリートを知ることや障害に対する理解をより身近に考えることにより共生社会をつくり上げる機運醸成になる。また、応援事業（ホストタウン）への参加についてどうか。

答 第6次上里町障害者計画では、ノーマライゼーションの理念の下、障害者の社会参加の拡充を基本目標に掲げた。具体的施策の一つとしてスポーツ・レクリエーションの促進を掲げた。ホストタウンについては、大会準備連絡会議等の動向を注視し判断したい。町として心に残る大会となるよう応援する。

質問

4

発達性読み書き障害（ディスレクシア）について

問 疑問がある児童、生徒を早期発見できるよう学校現場では、どのような検査をしているのか。また、適切なサポートはできているか。

答 教育長 学校からの報告では、ディスレクシアの疑いがある子どもはいないが、早期発見に努めていきたい。学習用PC端末やデジタル教科書を活用してサポートしていく。

※ノーマライゼーション

障害者や高齢者などの社会的弱者に対して特別視せず、みんなが同じように生活できる社会をめざす。



一般質問

金子 義則

問

ひとり親の養育支援や高齢化による班長制度について

答

今後も丁寧に対応し調査研究をしたい

質問 1
ひとり親家庭の養育費確保支援について

問 最近では各自治体独自にひとり親家庭の支援について対策をしているところが大変増えている。この上里町でも養育費確保支援に肝となる公正証書等作成費用の助成を実施頂きたいが如何か。



答 上里町では5月2日現在ひとり親家庭で児童扶養手当を受給されているご家庭は、260件ある。養育費確保支援としては「こどもの健やかな成長の為に」など法務省によって作成されたパンフレットなどを利用し、担当各課の担当者が相談に乗っている。養育費の確保に至っては、離婚時に養育費についてきちんと取り決め、口約束ではなく書面に残していくことが何よりも重要であることから、議員指摘の公正証書等作成費用の補助支援や養育費保証契約締

質問 2
高齢化による各行政区の班長制度について

結経費の補助事業などについて窓口での状況把握から始め、埼玉県内の実施状況等注視しながら引き続き調査研究をしてまいりたいと考えている。

問 高齢化により各行政区の地域役員、班長について私の地域でも現在高齢の一人暮らしの方がいる。その方たちが皆元気で活動的であれば良いが、足腰の不安がある方もいる。ほとんどの自治会では順番で班長が決まっていると思うが、班長がやりたくても出来ない方に対して何か良い対策がでないのか伺う。

答 昨今の高齢化により班長などの担い手探しに苦慮している状況にある。班によっては班員の高齢化により引き受けることが出来ずに、若い世代が数年に1度回ってきてしまうケースも有る。

班長制度の運用は区で取り決めて行うもので、他の世帯

質問 3
公共事業の選択と優先順位について 三田中通り線

との公平性を図りつつ話し合いの上で決めて頂きたい。又町から助成をしている地区活動推進費を有効に活用して頂きたい。

問 沢山の公共事業が現在行われているが、私の地元である昭和49年10月4日に都市計画道路として計画されている三田中通りは現在も放置状態である。子供達の通学路であり、大変危険な状態が続いている。又雨が降れば水はあふれ出す状態である。計画から49年が経つが、整備するのかわからないのか伺う。

答 三田中通り線は、宅地開発などで先行買収し交通事情に応じ随時簡易舗装で交通環境の保全を行ってきた。また、事故抑制のため県警本部へ要望を重ねた結果、古新田四ツ谷線交差点に信号機を設置出来たが、完成形での都市計画事業着手の具体的な時期は定

質問 4
防災行政無線について

まっていけない。今後は雨水対策計画と一体的な三田中通り線の整備計画を検討していく。かなりの費用が発生するので、児玉工業団地線が開通後、優先的に取り組んでいきたいと思う。

問 昨年度より何度も先輩議員を含め防災行政無線が聞こえないと言う質問があった。今回もう一度質問する。近年異常気象や犯罪等で防災行政無線のお知らせが有るが、全く聞こえない事が非常に多いため、早急に対策をして頂きたい。

答 聞こえないという地域などを対象に、測定器や人間の耳による調査を実施した。また災害情報の伝達等については、防災情報メールやLINEエリアメールなどの多様化に努め、町の実情に合致したシステム導入に向けて前向きに検討したい。

議会日誌

6月

- 5日 第3回定例会開会、町長の行政報告
一般質問
- 6日 一般質問
- 7日 全員協議会、議会運営委員会
- 8日 議案審議(条例改正、補正予算等)
- 13日 全員協議会、閉会
- 20日 教育委員との意見交換会
- 29日 議会広報広聴常任委員会

7月

- 6日 学校訪問
- 7日 学校訪問
- 12日 議会広報広聴常任委員会
- 14日 全員協議会、第4回臨時会
- 18日 全員協議会
- 28日 児玉郡町村議会議長会 前期研修会

8月

- 4日 利根川治水同盟治水大会
- 9日 本庄上里学校給食組合議会
議会広報広聴常任委員会
- 10日 全員協議会、第5回臨時会
「公共交通」に関する研修会
- 17日 議会運営委員会
- 18日 千葉県流山市議による行政視察
- 23日 神川町議会運営委員会による行政視察



今回の議会
だよりが創刊
より100号を迎
えました。ス
タートの声は各議員が町民
の皆さんへ個々に一般質問
議会報告等の活動報告を行
っておりましたが、この
議会情報を皆さんに発信す
る冊子が出来ないかと、議
会で協議し編集委員会を作

り、発刊になりました。発
刊時の方に、当時の思い出
等を執筆いただきました。
初号の編集に携わった者と
してうれしく思います。今
後とも町民の皆様に関しま
れる開かれた議会を目指し
、わかりやすくお伝えでき
よう、議員一同全力で取り
組んでまいります。

議会広報広聴
常任委員会
委員長 齊藤 崇
副委員長 伊藤 覚
委員 石井 慎也
高橋 勝利
植原 育雄
高橋 仁
戸矢 隆光

第6回9月定例会の日程(予定)

日	月	火	水	木	金	土
					9月 1	2
3	4	5	6	7	8	9
	(開会) 一般質問	一般質問		議案審議	議案審議	
10	11	12	13	14	15	16
	特別委員会	特別委員会		特別委員会	特別委員会	
17	18	19	20	21	22	23
	敬老の日	特別委員会	特別委員会		特別委員会	秋分の日
24	25	26	27	28	29	30
	特別委員会	特別委員会		特別委員会	特別委員会	
10月 1	2	3	4	5	6	7
	特別委員会	常任委員会	常任委員会	(閉会) 報告・採決		

※開会は原則午前9時です。午前中で議事が終了しない場合は、午後
の再開は1時30分です。(時間に変更になることがあります。)

※議事の進行上、休憩が入る場合があります。

※定例会及び各委員会は、傍聴可能です。

第6回9月定例会一般質問一覧

	氏名	質問事項
4日(月)	戸矢 隆光	①タウンミーティングについて ②高齢者対策について ③工業立地について
	飯塚 賢治	①災害時対策について ②子宮頸がん撲滅に向けた取組について ③誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「CO COLOプラン」を受けての不登校支援の推進について ④公園について
	植原 育雄	①ウニクス上里店の出入口への定周期信号機設置について ②保健センター等複合施設建設について ③児童館の活用改善について
	猪岡 壽	①神保原駅北町づくり協議会について ②ふるさと納税について
5日(火)	高橋 勝利	①立地適正化計画が10年目を迎えた事について ②誘導施設について ③立地適正化計画推進に向けた取り組みについて ④神保原駅が誕生した経緯について ⑤育成会の在り方について
	沓澤 幸子	①保健センター等複合施設建設について ②地球温暖化対策(環境基本計画の具体化)について ③排水路清掃等の負担軽減について
	石井 慎也	①情報発信について ②神保原駅北まちづくりについて ③上里町公共施設再配置・維持保全計画について
	齊藤 崇	①町の事業計画について ②町立小中学校の教育、教育現場について ③町の特産、観光事業について
	新井 實	①人口減少が加速する中での地域社会の確立について ②マイナ「保険証」について ③子供の貧困対策について ④水素の活用について

